



10のアイメッセージの意義 と 認知症リンクワーカー



新・京都式オレンジプラン

プラン策定の趣旨

新・京都式オレンジプラン(第2次 京都認知症総合対策推進計画)は、医療・介護・福祉等**関係機関が連携し**、認知症の早期発見・早期対応、認知症ケアの充実や家族への支援など、**関係機関・団体等の役割の明確化**を図るとともに、**府民、関係団体、行政、事業所それぞれの行動指針**となるよう策定します。

目指すべき姿

認知症になっても**本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会**(認知症になっても安心して暮らせる京都を目指して)

計画期間

2018～2023年度(6年間)

アイメッセージの意義 と 制定経過

オレンジロード 10のアイメッセージ

目指す姿

認知症と
ともに歩む

本人の意思が尊重され、

住み慣れた地域で暮らし続けられる社会

認知症の人とその家族が望む

10のアイメッセージ

京都式オレンジプラン

かなえるオレンジロード

1 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは奨励され、できないことは支えられて、活動的にすごしている。

2 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。

3 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。

4 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。

5 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんでいます。

6 私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずすごしている。

7 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。

8 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもってすごしている。

9 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。

10 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。

オレンジロード

日 時：2012年（平成24年）2月12日

場 所：同志社大学寒梅館ハーディーホール

テーマ：

認知症を生きる人たちからみた地域包括ケア

～京都の認知症医療・介護の全体像をデッサンする～



● 京都文書の採択

- ◆ 認知症の疾病観を変えることから始める
- ◆ 認知症の疾病観を変えるためには(出会いのポイントを前に倒す)
- ◆ 入口問題とは何か(アクセスからの排除)
- ◆ 入口問題の解決に向けた道筋
- ◆ 認知症医療の問題(ケアとの相互補完的關係)
- ◆ 認知症ケアの問題(守備範囲を拡大する)
- ◆ 都市型と地域型(地域特性に応じた認知症地域包括ケア)
- ◆ 地域包括ケアから排除されやすい人たち(排除の要因は多因子)
- ◆ 若年性認知症問題は多くのことを提起する(若年性認知症は二度排除される)
- ◆ 大変な人がいるのではなく大変な時期があるだけ

日 時：2013年（平成25年）2月17日

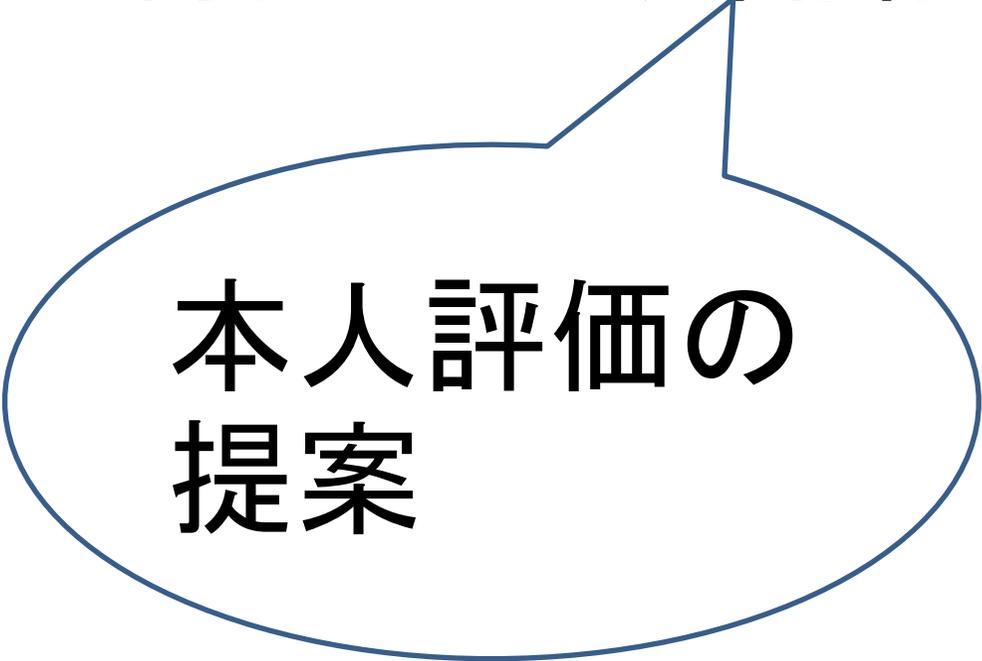
場 所：同志社大学寒梅館ハーディーホール

テーマ：

あれから1年 京都に新しい認知症ケアを確立する
認知症になっても地域の中で今までどおり暮らし続けたい

2012京都文書からみたオレンジプラン

～かなえられた私の思い五年後の十二の成果指標～



本人評価の
提案

京都式オレンジプラン

私は・・・から始まる

『10のアイメッセージ』

英国の『**国家認知症戦略**』では、2009年からの5年間で、認知症ケアに関する政策やサービスの集中改革期間としているが、最終年(2014年)には、どの程度まで、この改革が前進したのかを、9つの質問(9つのアウトカム)を使い、本人や家族も参加して確認することが、あらかじめ開始年(2009年)に定められている。

京都では、この考え方を参考として、**認知症を生きる人(私)からの『10のアイメッセージ』**を発出する。

~京都式オレンジプラン『10のアイメッセージ』~

P37

- 1 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。
認知症になっても、できることがたくさんあり、できないことには、どんな支援が必要なのかなど、すべての人がこの病気を正しく理解することで、認知症の人の人権と個性が尊重される社会になります。
- 2 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。
早い時期に正しい診断や治療を受け、病気を理解し、支援を受けることで、認知症の人が自分自身の将来を考え決めることができる社会になります。
- 3 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。
認知症の状態や家族の状況等に応じ、適切に医療や介護・福祉のサービスが連携して提供されることで、認知症の人が住み慣れた地域で必要な時に必要な支援が受けられる社会になります。
- 4 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもつてすごしている。
認知症についての偏見をなくすることで、地域の中で孤立せず、できる範囲で働きたい、何か役割を果たしたいという認知症の人の思いが、かなえられる社会になります。
- 5 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんでいます。
これまで培ってきた仕事や趣味の能力を、可能な限り活かせる場や機会が身近な地域に多くできることで、認知症の人が自分らしく人生を楽しめる社会になります。
- 6 私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。
認知症の人を支える家族の介護負担を軽減するため、身近なところに、相談や交流の場を増やすことで、介護者の生活や健康にも十分な支援が届く社会になります。
- 7 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。
意思表示がうまくできなくても、あたりまえに地域で暮らせることで、人生の終末を迎えても、認知症の人の尊厳が大切にされる社会になります。
- 8 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもつてすごしている。
京都のどの地域に住んでいても、認知症に関する情報を得ることができ、身近なところで、各種のサービスを利用したり、仲間と出会い、交流ができることで、認知症支援に格差のない社会になります。
- 9 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもつて参加し、すごしている。
若年性の認知症になっても、同世代の人と同じように、家族や地域での役割が果たせることで、若年性認知症の人も生きがいがある社会になります。
- 10 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもつてすごしている。
究極の願いは認知症が治ること。そのために、認知症の原因解明、薬やケアなどの研究に社会全体で取り組む必要があります。

アイメッセージ

新・京都式オレンジプラン★10のアイメッセージ

1. **私は**、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられ、活動的にすごしている。
2. **私は**、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。
3. **私は**、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。
4. **私は**、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。
5. **私は**、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんですごしている。

新・京都式オレンジプラン★10のアイメッセージ

6. 私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。
7. 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。
8. 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもってすごしている。
9. 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。
10. 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。

- 「アイメッセージ」とは、理想とする社会の姿を、**認知症の本人**である「私」(= I (アイ))を主語にした10のメッセージとして表現したものです。

- 認知症の人とその家族の思いを、アイメッセージとしてオレンジロードに位置づけ、オール京都体制で、こうした目標に向かって**検証と評価を繰り返しながら**、認知症に正面から向き合い、あらゆる困難が克服されるよう、**府民一丸となって取り組む決意**を示したものです。

新・京都式オレンジプラン 4つの重点課題

1 認知症の疾病観を変える 〈アイメッセージ 1・4・5〉

認知症の人の社会参加の支援や、認知症に関するポジティブな情報の発信、多世代への啓発などを通して、認知症に対する社会のイメージを変えていきます。

- ▶ 個別方策(1) すべての人が認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり
- ▶ 個別方策(4) 地域での日常生活や就労、社会参加等の支援の強化

2 診断の直後から、本人・家族に寄り添った支援 〈アイメッセージ 2・6・7・8〉

リンクワーカーによる支援やピアサポートの場づくりなど、診断の直後から、認知症の人や家族の気持ちに寄り添った支援を充実します。

- ▶ 個別方策(2) 〈早期発見・早期鑑別診断・早期対応〉ができる体制づくり
- ▶ 個別方策(5) 家族・介護者等への支援の強化

新・京都式オレンジプラン 4つの重点課題

3 とぎれない医療・介護の仕組みづくり

＜アイメッセージ 3・10＞

状態や環境が変わっても、とぎれずに医療・介護サービスを受けられるよう、医療と介護の連携や、身体合併症・BPSDへの対応などを進めます。

- ▶ 個別方策(3) とぎれない医療・介護サービスが受けられる仕組みづくり

4 若年性認知症の方への支援の強化

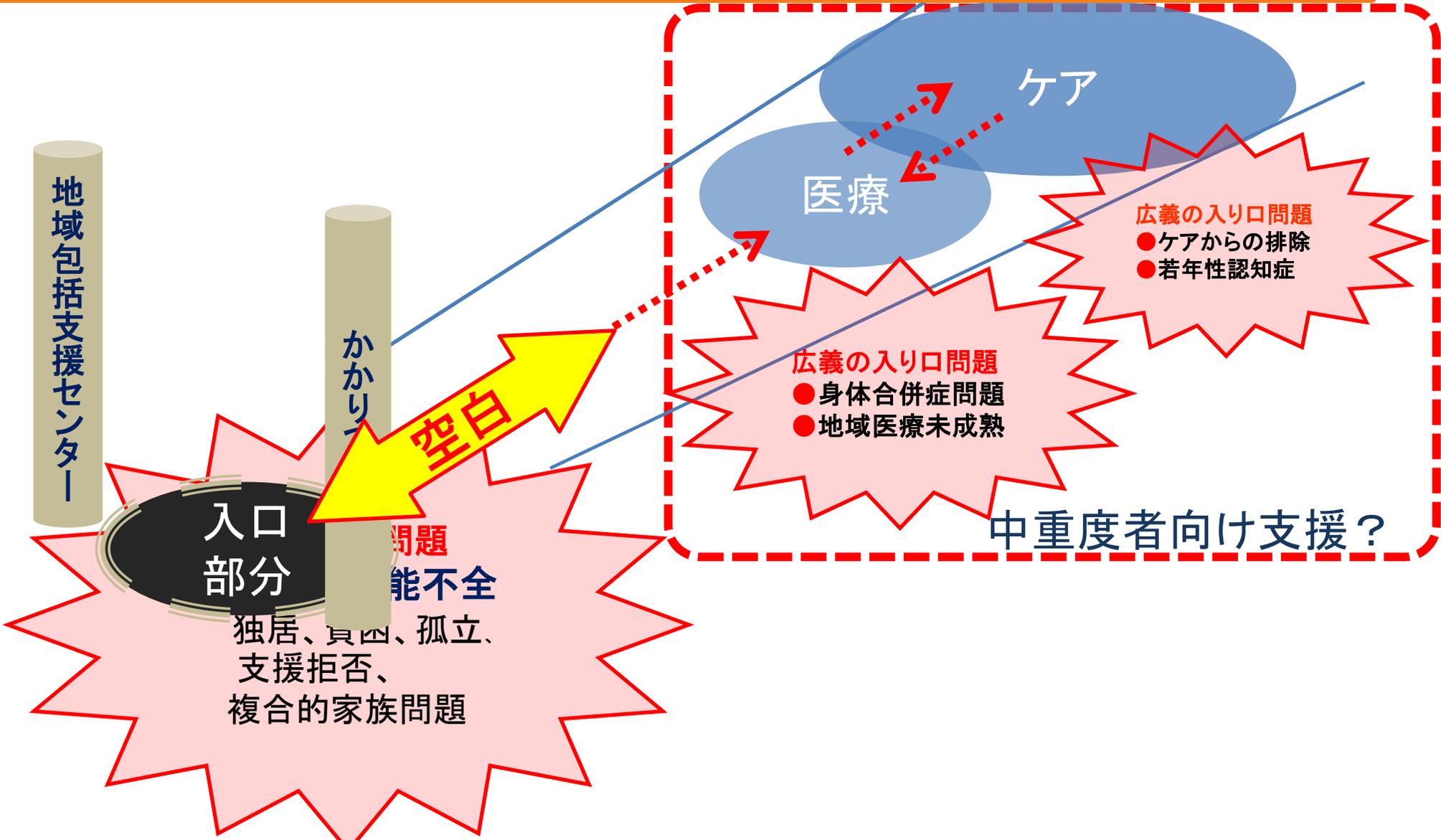
＜アイメッセージ 9＞

若年性認知症支援コーディネーターと関係機関が連携し、就労継続や社会参加、生きがいつくり、家族への支援など、幅広い支援を充実します。

- ▶ 個別方策(6) 若年性認知症施策の強化

なぜ、リンクワーカーが
求められたか？

入り口問題



まとめ(リンクワーカーへの期待)

